

監修：東京大学 工学部 名誉教授 茅 陽一

社会教育ビデオ（エネルギー教育）【中学生以上・一般向け】 VHS・DVD 約22分

原子力発電はなぜ生まれたか

エネルギー文明の歩み



企画意図

人類は新たなエネルギーを獲得することで、今日まで発展してきました。はるか昔、人類は火を発見し、木などの燃料を知り、さらに18世紀には火力によって水を蒸気に変える蒸気機関を発明しました。その後、石油が燃料の中心となりました。石油は石炭よりも火力が強く、しかも液体であるため運搬や貯蔵も簡単です。そして20世紀、人類はこれまでにない新たなエネルギー、原子力エネルギーを手に入れたのです。しかし2011年3月に東日本大震災による福島第一原発の事故が起こり、それによる放射能汚染が大きな問題となりました。この作品では、人類のエネルギーの歴史を振り返りながら、今後の原子力エネルギーや再生可能なエネルギーについても考えていくものです。

社会教育ビデオ（エネルギー教育）【中学生以上・一般向け】 VHS・DVD 約21分

どうなる？今後の電力エネルギー

地球環境と原子力発電の役割



企画意図

現在の私たちの便利な生活は、エネルギーの大量消費の上に成り立っています。これまでの中心は、石油など化石燃料を燃やしたエネルギーでした。しかし、化石燃料は有限の資源であり、また燃やすと発生する二酸化炭素が温室効果を高め、地球の温暖化を引き起こします。そこで20世紀に見いだされた新しいエネルギー源である原子力発電が注目されるようになりました。

しかし一方、原子力発電には問題もあります。2011年3月に起きた東日本大震災による福島第一原発の事故は、チェルノブイリに次ぐ事故といわれています。このような事故が二度と起こらないようにするには、今後、どのような取組みが必要なのかを考えていきます。

映学社作品